

【学校経営目標】

- 「確かな学力・健やかな心と体」を身に付けさせ、社会をたくましく「生き抜く力」を育む教育活動が展開される学校づくりを行う。
- 「豊かな人間性」を身に付けさせ、社会の形成者としての普遍的な道徳心や規範意識、そして自己有用感をもって「人の役に立つ喜び」を育む教育活動が行われる学校づくりを行う。
- 多くの場面で地域との連携を図り、地域とともに児童を守る、地域とともに心を育む、地域とともに学力を向上させる「地域とつながる」学校づくりを行う。
- 教育環境の点検・整備・改善に努め、いじめ、不登校、発達課題、進学・進級、学力不振等、児童や保護者の相談体制を充実させ、「安全安心で信頼される」学校づくりを行う。

【目標達成に向けて取り組む項目】

I 『確かな学力・健やかな心と体』 II 『豊かな人間性』 III 『地域とつながる学校』 IV 『安全安心で信頼される学校』

I 『確かな学力・健やかな心と体』を育むために

目標	具体的取組	自己評価・課題と対応策	達成率
○授業改善の取組を推進する。	☐ 教育活動全般の発信 ☐ 自己申告授業観察、日常的な授業観察による授業改善 ☐ 小学校教育研究会への積極的参加	◇教員の授業力は「授業を見られること」で最も伸長する。絶えず校長による授業観察を行い、指導・助言を繰り返した。また教育活動全般の様子をホームページで発信すること（年間約2000件以上）により意識を高め、教員個々の授業力向上を図った。意識が高まる中、小教研で部長を務めるものや研究授業へも進んで挑戦する教員が複数いた。今後お互いに授業を見せ合い、高め合う雰囲気を醸成していく。授業改善と高学年対象の「拡大下柚木道場」（算数科）の実施により、6年生では昨年度よりA層+10ポイント、B層+3ポイント、CD層-12.6ポイント。5年生ではAB層+14.9ポイント、D層-18ポイントという結果であった。	85%
○健康な心と体の育成を図る。	☐ 下柚木スタンダードをもとにした基本的な生活習慣の定着 ☐ 課題意識をもった心と体の健康づくり	◇必ず守らせる必要最低限のルールに見直すとともに、それを全学級で徹底することで基本的な生活習慣の向上を図ることができた。今後も児童の安定した生活習慣の定着と維持に取り組んでいく。 ◇年間を通した健康づくりへの取組は、まだ不十分であった。運動委員会主催の体力向上イベントを行った。健康保持の増進と体力向上に対する児童の意識を楽しみながら育てるきっかけとすることができた。しかし、実質的な体力向上へとつなげることが次年度への課題である。	75%

II 『豊かな人間性』を育むために

目標	具体的取組	自己評価・課題と対応策	達成率
○自他の生命の尊重、人権尊重の意識を向上させる。	☐ いじめ調査と聞き取りの実施、いじめ防止対策委員会の対応力強化 ☐ 不登校児童に対する組織的な対応 ☐ 異年齢交流活動の活発化を通した思いやりの心と規範意識の育成 ☐ クラブ活動・委員会活動など校内研究「特別活動」ともつながる児童の主体的活動の推進	◇「いじめを見逃さない」という立場に立ち、丁寧ないじめ調査を行った。重大ないじめの未然防止を図っている。毎週末全教員参加のいじめ対策会委員会の実施は、情報共有と課題解決に非常に有効であった。 ◇不登校傾向の児童に対し、家庭と綿密な連携を図り、改善へ向けて複数の教職員で対応した。今後も継続する。 ◇年間を通して異年齢交流活動を積極的な展開と、新たな取り組みである「たてわり班清掃」も加わり、思いやりと規範意識の心を育んだ。児童主体によるクラブ活動の運営が軌道に乗っている。	77%

○人とつながる力の定着を図る。	□返事・挨拶・丁寧な言葉遣いの定着のための日常的・継続的な指導、挨拶運動の実施	◇朝夕の元気な自主的挨拶が、毎日職員室と校長室に届けられている。学校行事等の様々な機会を通して、マナー・エチケットの向上や、人とつながる日常的な会話力の更なる定着を図ることができた。	90%
○特別支援教育の充実を図る。	□児童の実態に基づき、個に応じた指導の創意・工夫 □特別支援教室拠点校として3校連携の中での授業改善 □特別支援教育におけるスクールカウンセラー、臨床発達心理士等との連携	◇特別支援教室において、連携型個別指導計画の作成を行い、個々の児童の困り感、保護者や在籍学級担任の思いを共有した。またカウンセラーや臨床発達心理士と連携しながらコミュニケーションスキル等の向上を図った。次年度も全教員に特別支援教育の研修を位置づけ、児童理解や指導技術の向上を図っていく。 ◇特別支援教室拠点校として巡回校との連携をより密にしながら各校の課題解決へ向けて授業改善を図った。管理職による巡回校授業観察を複数回行った。	75%

Ⅲ『地域とつながる学校』づくりのために

目標	具体的取組	自己評価・課題と対応策	達成率
○地域に開かれた教育環境をつくる。	□学校運営協議会の充実、学校運営協議会による小中一貫の取組の実施 □小中一貫教育・保幼小連携の充実 □地域のボランティア活動、放課後子ども教室の活動を推進する。	◇毎月の学校運営協議会の中で、引き続き学校を強く支えていただいている。宮上地区三校合同学校運営協議会企画の漢字検定が、昨年度に引き続き本校でも実施できた。学運協との協働で30周年行事等を成功させることができた。 ◇宮上地区三校校長会議を定期的に開き、様々な情報共有を進めることができた。6年生の中学校訪問や中学校生徒会による説明会を実施し、授業参観を伴う合同研修も実施した。 ◇特色ある教育活動「学校林活動」について学校運営協議会委員、地域ボランティアの協力の中、実施した。学校林の環境調べや保全活動という貴重な経験をもたせることができた。次年度以降も開校時以来の伝統を継承していく。 ◇「下柚木算数道場」「放課後子ども教室」「図書読み聞かせ」を学校コーディネーターや地域ボランティアの協力の中、これまで以上に推進した。	85%

Ⅳ『安全安心で信頼される学校』づくりのために

目標	具体的取組	自己評価・課題と対応策	達成率
○児童・保護者にとって安全・安心な教育環境をつくる。	□教職員間の連携の充実と資質の向上 □地域の関係諸機関と連携した協力・相談体制を確立 □児童自らが危険を予測し、回避する能力の育成 □施設・設備の安全の徹底と環境整備の充実	◇会議を減らし、児童と向き合う時間や教材研究の時間を増やす一方で、組織内連携の重要性をことあるごとに確認した。報告・連絡・相談の徹底と複数確認、分掌の枠を超えた協力体制を推進した。服務事故防止の研修も複数回実施した。 ◇毎週金曜日のスクールカウンセラーと児童・保護者との面談を充実させた。必要に応じて地域の関係諸機関と連携を取り問題解決に努めた。 ◇を計画的に実施した。昨今の災害状況を鑑み、避難訓練の内容を刷新し児童の意識と対応力向上を図れた。 ◇管理職による毎日の安全点検と、全教職員による毎月の施設設備点検を行い、より安全性を高める修繕と児童が安心して生活できる環境整備に努めた。	86%

※達成率は学校評価（保護者・高学年児童）による肯定的な回答の割合（学校日より2月号に掲載）等を参考にして記入しました。